

平成三十年二月投句

野焼跡阿蘇を続べたる夕焼かな

コーヒーの香に包まれてクロッカス

バス停に降りれば運河炬燵舟

やとすれ違ふお堀のこたつ舟

早春賦歌声聞こゆ資料館

満ち潮を待つ船溜まり蘆の角

小さき文字葉書うづめて寒見舞

鉄橋を連れ越後へ雪解川

ふと覚めて除雪車の音かすかにも

勝利

くさぐさの雛のお道具細やかに

おほかたは海苔舟川の底見ゆる

噴煙の一つは阿蘇野焼く煙

盆梅の古木居並ぶ玉座の間

豆を撒く園児泣きつつ鬼に撒く

西郷どんの額字のびやか梅ひらく

光子

節子

真理子

由紀子